

Nikkei日本サービス業PMI[®]（および複合PMIデータ）

10月のサービス業の成長、過去26ヶ月で最大の勢い

主な動向

- 主要指数の事業活動指数、前月から上昇して53.4に
- 新規事業、過去53ヶ月で最大の伸び
- 景況感も改善

データ収集期間 10月12日～26日

日本のサービス業の業況は10月も改善し、現在の連続改善期間はこれで13ヶ月となった。支えとなったのは、2013年5月以降最大という新規事業の増加だった。また受注残も引き続き増加し、雇用も10ヶ月連続で増加した。価格面では、購買コスト圧力が今回も増大したが、サービス単価は伸びが鈍り小幅となった。

主要指数の季節調整済み事業活動指数は9月の51.0から上昇して10月は53.4となり、堅調な勢いで業況改善を示した。今回の勢いは2015年8月以降で最大だった。

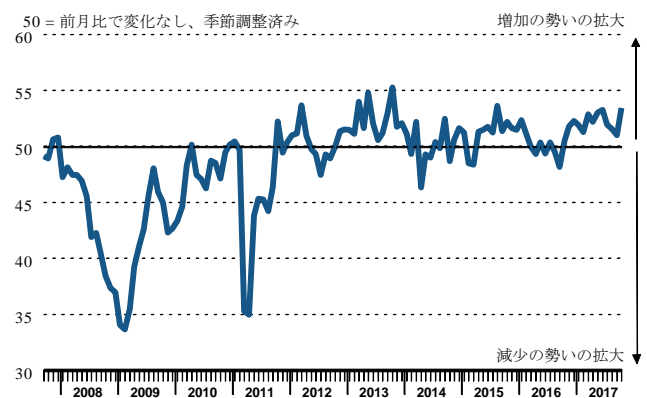
一方、製造業の生産高も伸びが加速し、過去5ヶ月で最大の勢いとなった。このためNikkei複合生産高指数は9月の51.7から上昇して10月は53.4となり、過去45ヶ月の最大値を再び記録した。

事業活動が2年強ぶりの大幅増加となる一方、新規事業も2013年5月以降最大の勢いで増加した。調査対象企業によれば、事業活動増加の支えとなったのが新規事業の増加だった。

日本の製造業も新規受注が増加したが、勢いは9月からやや後退した。

事業活動同様、新規事業の伸びも堅調だった。また需要状況の改善で受注残も引き続き増加した。受注残は11ヶ月連続で増加したことが、今回の調査データで示された。ただし勢いは前月から鈍り、4月以降で最小となった。

Nikkei日本サービス業PMI



出典：Nikkei、IHS Markit

新規事業の増加を背景に、日本のサービス業は雇用を増加させた。雇用増は連続10ヶ月となった。しかし勢いは小幅で9月よりも小さかった。

製造業の雇用も小幅な伸びだったが、過去10ヶ月で最小だった9月の値を上回った。

コスト圧力は10月も増大し、購買コストの増加はこれで連続5年となった。増加の勢いは、僅かずつではあるが3ヶ月連続で拡大した。企業は人件費の増加が営業費を押し上げたと回答した。

日本のサービス業は需要増を背景に、10月に3ヶ月連続でサービス単価を引き上げた。ただし購買コストの加速的上昇にも関わらず、平均サービス単価の伸びは小幅で、9月からも鈍化した。

同様に、製造業の購買コストも伸びが加速した。ここから10月は製品価格も上昇し、勢いは2014年11月以降の最大値を再び記録した。

最後に、サービス業は今回の調査期間中、強気の成長見通しを維持した。強気の程度は前月を上回り、6月に記録した5月以降の最大値に再び達した。調査対象企業は自信の根拠として、国内景気回復への期待と新規顧客の獲得を挙げたところが多かった。

コメント

当調査をまとめたIHS Markitエコノミスト、**Joe Hayes**による日本サービス業PMI調査データに関するコメント。

「日本のサービス業は第4四半期、好調なスタートを切った。主要指数である事業活動指数が過去26ヶ月の最大値を記録した。支えとなったのは、2013年5月以降最大という新規事業の伸びである。

さらに複合生産高指数は過去4年弱の最大値を再び記録し、民間セクターの景況が著しく改善したことを示した。

衆院選での安倍政権の勝利も手伝い、日本のサービス業の景況感は上昇した。強気の程度は前月を上回り、6月に記録した5月以降の最大値に再び達したことが注目される。」

- 以上 -

Nikkei日本サービス業PMI[®]は、**NIKKEI**の支援を受けています

Nikkei（日本経済新聞社）は新聞発行を軸にした複合メディア企業です。購読者数およそ300万人を数える日刊紙「日本経済新聞」にくわえ、複合メディアとしてオンライン、放送、雑誌を通じた情報発信を行っています。

日本経済新聞は今年、創刊140周年を迎えます。前身である「中外物価新報」の1876年創刊以来、中正公平の旗を掲げて質の高い言論報道を貫いてきました。「NIKKEI」ブランドは信頼の代名詞として国内外から高い評価をいただいております。

日経は、日本経済新聞をはじめとする新聞4紙の中核としながら、グループ各社の人材やコンテンツを生かし、デジタル技術を使って多様な読者ニーズに応える「複合メディア」を目指しています。2010年に創刊した「日本経済新聞 電子版」の有料会員数は40万人を超え、新聞社が手がける有料ネットメディアでは世界有数の規模になりました。創刊から5年、今年には読者にニュースをお届けするメディアから仕事に役立つツールに進化させていきます。

また2013年には、ネットと雑誌の英文複合媒体「Nikkei Asian Review」を創刊しました。アジアの経済情報を海外に発信するため、14年にはバンコクに「アジア編集総局」を開設するとともに、アジアの駐在記者を倍増させました。シンガポールにはビジネスの拠点「日経グループアジア本社」を設立、グループを挙げて「NIKKEI」ブランドのさらなる浸透と事業展開に取り組んでおります。目指すのは「アジアのリーディング・メディア」です。

<http://www.nikkei.co.jp/nikkeiinfo/en/>

NIKKEI ASIAN REVIEW <http://asia.nikkei.com/>

アジアの経済圏の実像を徹底的に詳しく伝えます

Nikkei Asian Reviewではアジアに密着した比類ない取材網を生かし、経済の専門家による寄稿記事、知識人の洞察、見解、分析を交えアジアの今をお伝えします。

ご購入いただければ、最新のニュース、分析、洞察を手にしていただけます。パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読めるほか、週刊雑誌の印刷版でもご購入できます。



Asia300



アジア11カ国・地域の最大手企業300社超について網羅的な報道を提供します。事業に関わるデータベースや財務情報が支える手厚い報道により、アジア企業に関する最大の情報ハブとなる狙いです。



JAPAN UPDATE

日本の最新のビジネス情報およびニュースをお届けします。



VIEWPOINTS

第一線の書き手らによるコラム“Tea Leaves”をはじめ、世界の識者らがアジアに関する知見を寄せます。



POLITICS & ECONOMY

財政・金融政策、国際情勢を中心に様々な情報をお伝えします。



MARKETS

アジア各国市場の徹底的な分析にくわえ、特に成長著しいセクターについて最新の業界ニュースをお伝えします。



動画：

アナリストによる記事の解説や、企業トップのインタビューをご覧ください。



印刷版：

Nikkei Asian Reviewの選りすぐりのコンテンツを毎週、ご自宅・オフィスへお届けします。

詳細は下記へお問い合わせください

IHS Markit (PMIおよびコメントについて)

エコノミスト Joe Hayes

電話：44 1491 461 006

Eメール：joseph.hayes@ihsmarkit.com

プリンシパルエコノミスト Bernard Aw

電話：+65 6922 4226

E-メール：bernard.aw@ihsmarkit.com

マーケティング&コミュニケーション Jerrine Chia

電話：+65 6922 4239

Eメール：jerrine.chia@ihsmarkit.com

日本経済新聞社 (Nikkeiについて)

Ken Chiba, Deputy General Manager, Public Relations Office

Atsushi Kubota, Manager, Public Relations Office

電話：+81 3 6256 7115

Eメール：koho@nex.nikkei.co.jp

エディター・ノート

Nikkei日本サービス業PMI®は、400を超える民間サービス企業の購買担当者を対象に月間アンケートを実施し、回答の集計データを基準に算出されます。調査対象企業は、サービス業全体の構造を正確に反映するものとなるよう慎重に選ばれています。

Nikkei複合PMI®は、製造業生産高とサービス業事業活動指数の加重平均であり、800を超える日本の代表的な製造業・サービス業各社から集めた独自の調査データに基づいています。

各暦月の中旬に収集されたデータを基準に、前月実績と比較して当該月に何らかの変化がある場合には、その変化が調査回答に反映されます。当レポートでは、サブインデックスごとに改善・横ばい・悪化の各回答率、改善と悪化の回答率の差、および景気動向指数が掲載されます。景気動向指数は、改善の回答率に横ばいの回答率の半数を加算したものです。

景気動向指数は先行指標的な特性があり、現在起こりつつある動向変化を概ね示唆する有効な指数です。この指数が50を超えれば全体的な改善を、50未満なら全体的な悪化を表します。

購買担当者指数™ (PMI®) 調査では、売上高、雇用、在庫、価格といった多数のサブインデックスをもとに民間セクターの現況に関する最新情報を提供し、高い評価を得ています。各指数は、景況の把握や企業・投資戦略の形成に役立つものとして、多くの企業、各国政府、金融機関の経済アナリストの方々にご利用いただいております。特に各国中央銀行は金利の決定に当調査を役立てています。PMI調査は毎月いち早く発表される景況指標であり、政府機関が作成する同種のデータにも大きく先行しています。

IHS Markitは基本的調査データを公表後に修正することはありません。ただし季節調査要因は必要に応じて修正されることがあります。その場合、季節調整済みデータに影響が及びます。IHS Markitの過去の基本（未調整）数値、最初に公表された季節調整済みデータ、その後修正されたデータは購読契約によりご利用いただけます。お問い合わせは、economics@ihsmarkit.comへどうぞ。

IHS Markit (www.ihsmarkit.com)

IHS Markit (Nasdaq上場企業：株式銘柄コード「INFO」)は、世界の経済を促進する主要産業・市場のため、必須情報、分析、ソリューションにつながる専門知識を提供するリーディングカンパニーです。次世代の情報・分析・ソリューションを企業、金融機関、各国政府に提供し、経営効率の改善および正しい情報に基づいた意思決定のための洞察に役立てていただいております。企業・政府機関の顧客数は50,000を超え、ここにはFortune Global 500企業の85パーセントと世界の大手金融機関も含まれます。ロンドンに本部をおく弊社は、持続可能で利益の高い成長のために尽力しています。

IHS MarkitはIHS Markit Ltd.の登録商標です。その他全ての社名及び製品名はその各々の所有者の商標である可能性がありますのでご注意ください。©2017 IHS Markit Ltd. 禁無断転載。

PMI (購買担当者指数)

「購買担当者指数™ (PMI®)」調査は現在、40を超える国々およびユーロ圏等主要地域で実施されています。世界で最も注目される景況調査として、各国中央銀行、金融市場、企業経営者の方々より、経済動向を知る最新、正確、かつ独自の月間指標としてご利用いただいております。詳しくはウェブサイト、www.markit.com/product/pmiをご覧ください。

ここに提供するNikkei日本サービス業PMI®の知的所有権はIHS Markitに帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、IHS Markitから事前の承諾がない限り認められません。IHS Markitは、当レポートの内容またはそこに含まれる情報（「データ」）、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱落、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれをも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、IHS Markitは一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はMarkit Economics Limitedの登録商標、もしくはMarkit Economics Limitedに使用が許諾されたものです。Nikkeiは上記商標の使用許諾を得ています。IHS MarkitはIHS Markit Ltd.の登録商標です。

IHS Markitのプレスリリースを受け取りたくない場合は、joanna.vickers@ihsmarkit.comへメールでお知らせください。弊社のプライバシーポリシーは、[ここをクリック](#)してください。